

1 8	豊田	保見中学校	オゼキ タクミ
			氏名 尾 関 巧
分科会番号	1 2	分科会名	自治的諸活動と生活指導（中学校）

研究題目

共感的人間関係を基盤とし、学級の課題を解決しようとする生徒の育成

— 1 年学級活動 認め合い・話し合い活動を通して —

1 はじめに

本校には、主に南米出身の多文化多言語の生徒が多く在籍している。学校生活を送る中で、文化を背景とする価値観の違いから起こる問題は少なくない。しかし、日々を同じ学校・学級で過ごす中で感じている課題について、日本人と多文化多言語の生徒が協働して課題を解決しようとする姿を目にすることは少ない。また、学級会などで課題を解決する工夫を述べたとしても、自分の意見を発言しづらい雰囲気や人間関係の希薄さなどの理由から合意形成ができず、解決に至らないことが多い。

学習指導要領第5章第2項では、学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して、協力して学級活動などを行うことの重要性が示されている。それらを自主的、実践的に取り組むことを通して、集団や自分自身の生活上の課題を解決し、人間関係の形成、社会参画、自己実現といった資質・能力を育成することができると考えられる。本学級では、朝の会や帰りの会を含めた学級の活動において、互いのよいところを称賛し合ったり自由に友達と関わり合う時間を設けたりしているが、マニュアル的になっている様子が見られ、活動のねらいが十分に達成できているとは言い難い。そこで、国籍に関わらず、認め合い、話し合う活動を通して、共感的人間関係を基盤とし、学級の課題を解決しようとする生徒の育成をめざして、実践を行った。

2 研究内容

(1) めざす生徒像

仲間と協働して、学級の課題を解決しようとする生徒

(2) 仮説

日常生活や学級活動の時間において、よりよい人間関係を形成しようという気持ちを高め、学級の課題を共有し、改善する場を設定することで、仲間と協働して学級の課題を解決するために、計画し、行動しようとすることができるだろう。

(3) 仮説に対する手だて

手だて① 『Strawberry 愛情100%ノート』の取組

よりよい人間関係を形成しようという気持ちを高めるために、学校生活において、仲間のよいところや、感謝の思いを書き込む交換ノート『Strawberry 愛情100%ノート』を教室後方に置き、休み時間に生徒が自由に書けるようにする。

手だて② プロジェクト『Strawberry』の実施

学級の課題を共有し、改善できるようにするために、生徒たち自身で考えるよりよい学級づくりに向けた一連の活動『プロジェクトStrawberry』を実施する。

※『プロジェクト Strawberry』とは、生徒が考えた学級の課題を集める意見箱『イチゴボスト』を設置し、掲示板『イチゴファーム』で共有する。掲示された意見をもとに、学級をよりよくするための改善策などを話し合う学級会『ストロベリーフェスティバル』を行う。なお、『Strawberry』とは本学級の級訓である。

(4) 抽出生徒Aについて

本実践では、抽出生徒Aを設定し、その変容を追う。

＜生徒Aの様子＞ 多文化多言語の生徒で、簡単な日本語を使って日本人とも会話をすることができる。給食当番や清掃に対して真剣に取り組む。一方で、自分の役割を果たさない無責任な生徒や、係や当番の仕事を忘れがちな生徒に対して不満を感じており、自分本位な行動をとってしまうことがある。
＜生徒Aのめざす姿＞ 見つけた友達のよいところを、学級内で認め合う活動を通して、言語に関わらず学級の一員として友達と自ら進んで関わろうとする姿。また、学級の課題について、仲間と話し合うことを通して、友達と一緒に課題を解決するために計画したり、行動したりする姿。

(5) 指導計画

時間	内 容
	P (PLAN)
1	『あなたのお悩み何ですか・・・？ ストロベリーフェスティバルⅠ』 意見箱「イチゴボスト」や掲示板「イチゴファーム」をもとに、学級の課題から、よりよい学級をつくるためにどんなことができるか考える。 【生徒の姿】よりよい学級をつくるに、学級の課題「○○」を解決したい。
	D (DO)
2	『少しは変わってきたのかな・・・？ ストロベリーフェスティバルⅡ』 前時に話し合った学級の課題やそれに対する改善策に対して、学級全体としてどのような変化があったのかをチェックする。 【生徒の姿】学級会で決めたことを確認したら、よりよくするには「○○」が大切だな。
	C (CHECK)
3	『みんなはしっかり取り組んでいる？ ストロベリーフェスティバルⅢ』 学級の課題に対する改善策について、その取組の様子から改善策の有効性を評価し、さらにより改善策があるか検討する。 【生徒の姿】・今の方法がうまくいっているね。さらによくするためには○○しよう。 ・今の改善策のままでは難しい。新しい改善策を考えよう。
	A (ACT)
4	『まだまだきっとよくなれる！！ ストロベリーフェスティバルⅣ』 新たに掲示板「イチゴファーム」に掲示された学級の課題から、よりよい学級をつくるために何ができるかを考える。 【生徒の姿】これから先、この学級をみんなでもっとよい学級にしたいな。課題があったら、みんなで協力して解決しよう。

手だて①『Strawberry愛情100%ノート』の取組

手だて②『プロジェクト Strawberry』

3 研究の実際と考察

(1) 手だて①『Strawberry愛情100%ノート』の取組

よりよい人間関係を形成しようという気持ちを高めるために、学校生活において学級の友達のよい

ところや感謝の思いなどを記入することができる交換ノート『Strawberry愛情100%ノート』を教室に設置した。

休憩時間などを使って、生徒が気軽にコメントを書いたり、それを読んだりすることができるように記入スペースを教室後方につくった。また、ノートには、記入された友達のよいところや、感謝の思いを他の生徒と共有しやすくするために、「いいね」マークを付ける欄やコメント欄を作った。【資料1】設置した後すぐは、生徒たちの多くがノートの書き方や、どのような内容を書けばよいかを悩んでる様子だった。

教師が生徒の思いやりのある行動をノートに書いておくと、興味をもった生徒が仲のよい友達に対して感謝の思いを書く姿が見られた。また、それに対して、「いいね」マークを付けたり、コメントを書いたりする生徒が徐々に現れだした。

生徒Aはノートを書いている友達の様子を興味深く眺めていた。しかし、その時は書き込もうとはしなかった。様子が気になったので理由を聞いてみると、「友達のよいところと言ってもどんなことを書いたらよいか分からない。」と言ったので、「友達のよいところならば、どんなことでも大丈夫だよ。」と話すと、「うーん。」と言った後に、「友達のよいところを見つけたらにする。」と悩みながらも友達のよいところを見つけようとしていた。これはよりよい人間関係を築こうと前向きに考えている姿と考える。

交換ノートへの書き込みが増えると、「みんなのよいところやたくさんのありがとうが書かれているのに、見てもらえずに知られないのはさみしいと思う。」や、「書いてもらったことをみんなにも伝えたい。」という声があがった。

そこで、日直が帰りの会でノートに書かれていた人や、書いてくれた人を紹介する場をつくると、ノートに自分のことが書かれていたことを知り、内容を確認したり「いいね」という評価やコメントを入れたりする生徒が増えてきた。また、書いてくれた人に対してお礼を書いている生徒もいた。【資料2】

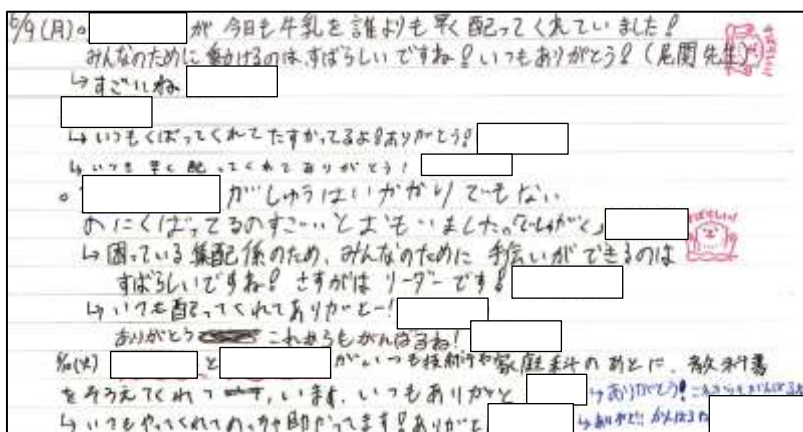
生徒Aは、給食の配膳や片づけの

手伝いをすすんで行っていた。そのことについてノートに「給食の当番ではないけれど、給食の準備を手伝ってくれました。ありがとう。」と書かれていることを知ると、声をあげて喜んでいった。そのときの気持ちを生徒Aに聞いてみると「自分がやったことをほめてもらって、とってもうれしい。」と話していた。他の生徒も書いてもらおうと嬉しいと感じるだろうと

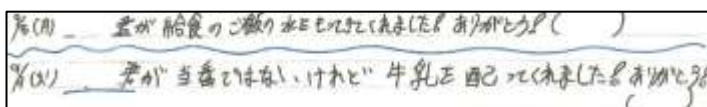
伝えと、「友達にも書いてあげたい。よいところを。」と話し、友達のよいところを書いてあげたいという強い気持ちが感じられ、友達とよりよい人間関係を築こうという気持ちが高まっている様子



【資料1】「いいね」マークとコメント欄



【資料2】ノートへの書き込み



【資料3】生徒Aに対するノートへの書き込み

が見られた。【資料3】

継続して交換ノートに取り組む中で、国籍に関係なく相手の行動に対する思いを記入する姿や、ノートに書くだけでなく、友達に直接「ありがとう」と言い合っている姿が、多く見られるようになった。

生徒Aも交換ノートに友達のよい行動を書き込んだり、友達の書き込みに「いいね」をつけたりする姿が頻繁に見られるようになった。【資料4】また、ノートに書く以外にも、授業で計算方法を教えてくれた友達に自分からお礼を言ったり、友達のロッカーの片付けを手伝ったり、自分から関わろうとする姿が見られた。理由を聞いてみると、「書いて伝えるのもいいけど、直接言ったり、手伝ったりした方が相手もうれしいと思うし、仲良くなれる気がするから。」と話していた。交換ノートの記入をきっかけにして、よりよい人間関係を築こうとする気持ちの高まりが、感謝の言葉や友達のための行動につながったと考えられる。



【資料4】ノートに書く様子

交換ノート『Strawberry愛情100%ノート』を設置し記入することで、生徒Aは、友達とよりよく関わろうという気持ちを高めることができた。そして、進んで友達のよいところを探し、よりよく関わろうとすることができた。以上から、手だて①は有効であったと考えられる。

（2）手だて② 『プロジェクトStrawberry』の実施

ア 意見箱『イチゴポスト』の設置と、掲示板『イチゴファーム』による課題の共有

生徒一人一人が感じている学級の課題を知るために、意見箱『イチゴポスト』を学級に設置した。生徒が考えた意見は、カードに記入して、気付いた時に自由に入れることができるようにした。【資料5】また、出された意見は、掲示板『イチゴファーム』に掲示して、学級の生徒が共有できるようにした。【資料6】



【資料5】『イチゴポスト』に投函する生徒

初め、どのようなことを書いてよいかを迷っていた生徒たちだったが、時間が経つにつれて、学級をよくするために改善したいことを自然と投函するようになってきた。出された意見を掲示すると、「確かに」「そうだよね」と課題に共感したような反応をしながら、掲示板を眺める生徒も増えてきた。

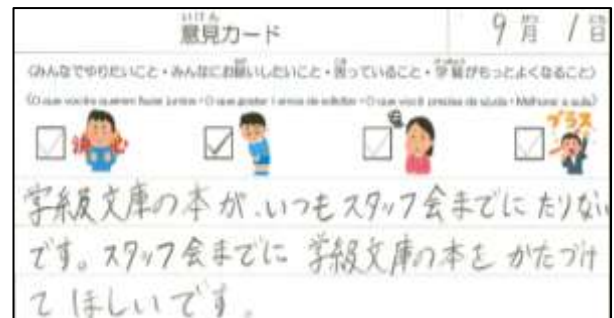
図書委員の生徒から、学級文庫の本の管理をしっかり行ってほしいという意見が出された。技術・家庭科教科委員からも「教科書がもとの位置に片付けられていないので、片付けられる方法を一緒に考えてほしい。」という意見が出された。これらの意見が『イチゴファーム』に掲示されると、複数人の生徒が「うちの学級の問題は、整理整頓ができないことじゃないかな」「苦手な人もいると思う。」と、学級の問題について話す姿が見られるようになった。

生徒Aも『イチゴファーム』に書かれていることを眺めていたので、何を考えていたのか聞いて



【資料6】『イチゴファーム』

みると「友達が困っているんだなと思った。」と話していた。具体的にどのようなことが学級の課題だと思うか聞くと、「教科書とか整頓ができていない。きれいにできるといいと思う。」と答えたことから、学級の課題を共有できていることが分かった。さらに、どうしたら改善されるか聞いてみると「まずは話し合ってみるのがいいと思う。」と答え、学級の問題を改善しようという気持ちが高まっている様子も見られた。



【資料7】図書委員が書いた意見

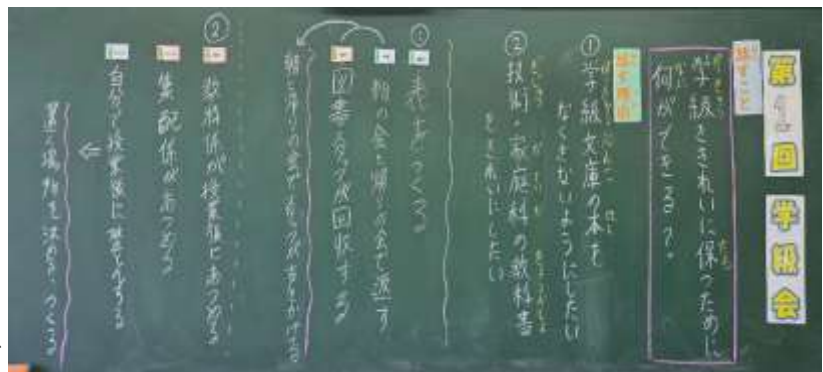
図書委員の生徒の意見【資料7】をもとに、学級会『ストロベリーフェスティバル』を行った際、生徒Aを含めて、多くの生徒が話し合う理由を「学級文庫や教科書が管理されていないから困っている仲間がいる」ことだと認識して、学級会に臨むことができた。『イチゴファーム』によって、学級の課題を共有できたからだと考えられる。

意見箱『イチゴポスト』を設置し、掲示板『イチゴファーム』に掲示することで、学級をよりよくするための課題が明確になり、生徒たちで共有することができた。

イ 学級をよりよくするために話し合う学級会『ストロベリーフェスティバル』の実施

掲示板『イチゴファーム』をもとに、学級会『ストロベリーフェスティバル』を実施した。生徒が中心になって行えるよう、生徒たちの意見をもとに、教師が進行方法と困ったときの対応法を作成し、学級会で活用した。

第1時には、『イチゴファーム』に掲示されたことをもとに、【学級をきれいに保つためには何ができるか】について話し合い、改善策を話し合った。生徒たちからは、一人一人が責任をもって片付ければよいという意見や、係の人が片付けばよいなどの意見が出された。生徒Aは、「自分のことだから自分でやったらいい。」と話していた。



【資料8】第1時 ストロベリーフェスティバル後 板書

授業後、生徒Aにこの発言について聞いてみると、「自分のことだから自分でやるのは当たり前。やらないのが悪い。」と話していた。苦手な人には協力しなくてよいのかと聞くと、「手伝ったりした方がいいのかも。」と話し、仲間と協力する必要があることに気付いた様子だった。【資料8】

学級文庫や教科書用のロッカーは、床に教科書がはみ出さないように整頓を意識した様子があったが、大きな変化は見られなかった。

そこで、第2時には、物品の管理や整頓についての改善策の見直しを行った。グループの話し合いで、生徒Bから片付けの苦手な人もいるから、協力できることを考えた方がよいという提案があった。その提案をもとに、学級全員が力を合わせて何ができるか考えた。生徒Aは、

- B：片付けの苦手な人もいるから、協力できることを考えたらいいんじゃない？
C：それもそうやんな。
A：うん。
D：とりあえず自分の分はきちんと片付ける必要あるけどね。
A：班ごとに集めて、整頓して入れるっていうのはどう？
B：それもいいよね。アリだね。

【資料9】第2時 ストロベリーフェスティバル授業記録

班ごとに集めて整頓して入れるという改善策を話していた。【資料9】

生徒Aの意見は、前時までと異なる意見だったので、変わった理由を聞いてみると、「実際にやってみて、協力していかないとうまくいかないと思ったから。」と話していた。学級をよりよくするために、仲間と協力しようとしていることが分かる。

その後、教科書を班ごとに集め、向きや高さをそろえてロッカーに片付けている様子が見られた。班ごとに集める際には、誰が片付けるかをジャンケンで決めている班や、リーダーが自分から集めている班、教科係が集めている班があった。誰が片付けるかまで定めてはいなかったが、改善策を実行するための方法を自分たちで考えて取り組むことができていた。

生徒Aは、よりよい学級をつくるために、「学級レクをしたい」という意見を提案した。提案した理由を生徒Aに聞くと、「みんながもっと仲良くなることがこのクラスの課題だと思った。」と話していた。そこで、第4時は学級のみんながさらに仲良くなるための学級レクリエーションについて、話し合った。学級レクリエーションについて、みんながさらに仲良くなれるように真剣に考える生徒が多く見られ、仲間と協力して学級の課題を考えている姿が見られた。

学級をよりよくするための課題を話し合う、『ストロベリーフェスティバル』を実施することによって、日頃抱えている学級の課題について話し合う機運が高まった。そのため、生徒Aは、仲間と協力して、学級の課題を見直し、改善する策を考えることができたと考える。

よりよい学級づくりに向けた『プロジェクト Strawberry』を実施したことで、生徒Aは意見箱『イチゴポスト』と、掲示板『イチゴファーム』によって、学級の課題を共有することができた。また、学級会『ストロベリーフェスティバル』を実施することによって、仲間と協働して、学級の課題を見直し、改善する方法を考えることができた。さらに、うまくいかなかった事について話し合い、改善策を考えて自ら行動に移すことができた。以上から、手立て②は有効であったと考える。

4 成果と課題

(1) 成果

交換ノート『Strawberry愛情100%ノート』を活用することで、生徒Aは、友達のよさや感謝の思いに目を向ける機会が増え、友達とよりよく関わろうという気持ちを高めることができた。また、友達のよいところを見つけて記入したり、感謝の言葉を伝えたりする姿が見られるようになり、共感的人間関係の形成につながった。

さらに、『プロジェクト Strawberry』を通して、意見箱『イチゴポスト』や掲示板『イチゴファーム』によって学級の課題を共有し、学級会『ストロベリーフェスティバル』で解決策を話し合う活動を継続したことで、仲間と協働して課題を解決しようとする意識を高めることができた。

(2) 課題

交換ノート『Strawberry愛情100%ノート』は、友達のよさや、感謝の思いを共有する上で有効であった。その一方で、文字だけでは書き手の意図や思いが十分に伝わらず、受け取り方に違いが生じることもあった。そのため、読み手に伝わる表現方法を継続して指導するとともに、対面で思いを伝え合う活動を取り入れるなど、人間関係をより深めるための手立てを工夫していく必要がある。

『プロジェクト Strawberry』では、学級の課題を共有し、改善に向けて協働的に取り組む姿が見られたものの、問題解決への主体的な関わり方には生徒間で差が見られた。主体的に課題を見だし、協働して解決する力をさらに育成するために、課題の共有や実践、ふり返りを今後も継続して行っていく必要がある。